

## 2. 評価結果

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共生(ともいき)の精神を基調に、利用者、家族、職員、地域の人達と共に幸せな生活を支えあい、喜びを分かち合う理念を作っている。また毎年見直している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、管理者と職員は、会議や日常のケアの中で取り組んでいる。契約書に利用者の権利が明文化されていない、また説明書などの書類にホームの実態にそぐわない表現がみられる。	○	利用者の権利の明文化と説明書など実態にそぐわない箇所の見直しを検討していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや文化祭などの行事に参加したり、婦人会や中学生、高校生との交流、積極的にボランティア受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を皆で話し合い、それを元に改善に取り組んだ。自己評価は3日間にわたり残って検討し、新たな改善点や、問題点について話し合いがおこなわれた。	○	自己評価を年間計画に位置づけ、改善計画を立て取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度運営推進会議も開催され、ホームの様子、運営状況などについて話し合い、意見や問題点は業務検討会議で取り上げサービスの向上に活かしている。	○	2ヶ月に一回の開催が望ましく、この会議を地域と共にホームの質の向上に活かせるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を交流が深まり、情報交流がスムーズとなり市町村計画の研修会や介護教室への参加などサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回のたよりと共に利用者の暮らしぶりや健康状態のお知らせ送付している。面会時や遠方の方は電話で日常の生活の様子を話している。金銭管理表報告は事務部から毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず要望や苦情、意見があれば出してもらうよう話している。出された意見や要望については、業務検討委員会で話し合い、検討し改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動、離職がある場合、利用者、家族に対しても、混乱がおきないように引継ぎを肌理細やかに行うなど、ダメージを防ぐ努力をしているが、法人の定期異動が年2回あり対応が不十分である。	○	馴染みの関係を大切にす為にも、法人の定期異動を必要最小限にして頂きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う新人研修や専門研修会などにすべての職員が参加できるよう配慮されている。研修内容は研修報告書で伝達共有している。またすぐにケアに活かせる部分については積極的に取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者間との相互見学、訪問、研修会などで職員が交流、意見交換が出来るようになっている。	○	法人以外の同業者と交流する機会も持つことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族に見学してもらったり、職員が自宅や施設や病院行って、安心していただけるようにしている。なかなか馴染めない方には、家族に頻りに面会に来て貰ったり、電話で声を聞かせてもらったりして、なじめるよう相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり生活の中でたくさん教えてもらうことがあり、いいことを言われる。また落ち込んでいる時、励ましてもらったりして、職員とともに支えあいながら生活がなされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、常に声をかけ本人の希望や思いを聞きながら添えるように努めている。困難などときには表情や仕草から思いを汲み取るようにしたり、また家族からの情報も得て本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、職員全員でカンファレンスで意見やアイデアを出しながら介護計画やアセスメントを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを行っている。また状態に変化があったときには、その都度見直しして、話し合い現状に即した介護計画の作成をするようにしている。	○	状態に変化がなくても1ヶ月に1度程度、状態について話し合い見直しをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて受診、通院支援をしている。入院時はできるだけ状態を把握し、ホーム内で対応可能な段階で早期退院の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の希望に沿った馴染みのかかりつけ医の受診支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護に関する指針が備えられている。家族や医師、職員、関係者で話し合い、学習し連携体制ができるよう準備に取り組んでいる。	○	本人や家族の意向を踏まえ、安心して終末期ご過ごせるよう関係者と連携を図り、引き続き進めていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけなど目立たずさりげなく行われている。記録などもきちんと管理されている。	○	利用者の居室に入るときは声かけや、ノックをしていただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその過ごし方はあるが、利用者のペースや希望体調などを考慮し、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝からじゃがいもや玉ねぎの皮むき食事の支度を職員と一緒にしていた。同じ食卓を囲んで同じものを食べ、楽しい雰囲気の中で食事の支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴日が決まっているが、希望があれば対応している。夜間入浴の支援は現在されていない。	○	利用者の希望に沿った入浴支援が望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や盛り付け、洗濯物たたみ、歌、おはぎ作りなど各自得意分野があり発揮してもらう機会をつくったり、昔やっていたことを教えてもらったり、役割、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとのお花見や紅葉、お祭り、買い物、ドライブなどできるだけ一人ひとりの希望に応じられるように努力をしている。	○	11月よりパートさんが1名増員になるとのこと、「今よりもっと希望にそっての日常的な外出をさせてあげたい」との言葉に期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり、人手のあるときは一緒について行ったりし、安全面に配慮しながら自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練をしている。また小規模訓練は毎月行っている。運営推進会議で防災について話し合い地域の方へ協力をお願いしている。	○	災害に備えた3日程度の備品等の準備と、地域と合同の各種防災訓練の実現を引き続き働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量はチェック表で把握している。栄養バランスの取れた食事になるように同法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には中庭があり季節の花や木が植えてあり、四季の移り変わりを感じることができる。利用者の活動に応じた心地よい音楽流れ、家具の配置もゆっくりとくつろげるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や仏壇があったり、家族の写真や大好きなぬいぐるみが飾ってあったりして、その人らしい居心地のいい居室作りが工夫されている。		

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272200266		
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地 (電話番号)	島根県隠岐郡隠岐の島栄町1076番地1 (電話) 08512-2-8270		

評価機関名	NPO しまね介護ネット		
所在地	松江市白潟本町長43番地		
訪問調査日	2007年10月29日	評価確定日	2007年11月29日

【情報提供票より】平成 19年 10月 1日

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.8人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設型		新築
建物構造	木造ルーフィング葺		
	平屋建て	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 105 円
	または1日当たり		950 円

### (4) 利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.1 歳	最低 81 歳	最高 99 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	隠岐広域連立立隠岐病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設8年目を迎えるホームである。利用者の方の平均年齢は90歳となり、体操をしたり、歌を歌ったり、歩行訓練をしながらの手すり磨が利用者の生活習慣となっている。玄関には利用者全員の表札があり家そのものである。日めくりカレンダーのある、居間には中庭があり自然を身近に感じることができる。職員は利用者の重度化にともない終末期の連携体制やケアサービス質の向上のために意欲を持って取り組んでいる。

## 葺

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	主な改善課題の「家庭的な空間作り」「継続的な研修」は検討され改善されていた。「利用者の状況に応じた職員の確保」は人事部の方にグループホームの特異性を伝え定期異動の見直しを要望している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
②	職員全員で3日間にわたり、自己評価検討会議のなかで日々のサービスを振りかえりながら話し合い、新たな課題や目標を確認しながら取り組まれたが、年間計画は立てられていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	利用者も参加して開催され、事業計画の説明や、防災訓練の様子、ホームの行事や暮らしぶりなどが報告されている。防災の中では地域代表のメンバーから協力の申し出もあり地域や町との連携も進み始めている。参加者全員から意見が出るように配慮され利用者からの声も聞かれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
③	3ヶ月に1回のいこいの家たよりを送付し、利用者の様子を知らせている。家族の面会時や電話連絡時、家族参加の催し物の後には必ず意見や要望を聞くようにして、出された要望や意見は業務検討会議で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	地域の祭りや文化祭などに参加したり、婦人会や中、高学生、ボランティアとの交流を積極的に行っている。周辺に住宅が無いので自治会との係りは薄かったが、運営推進会議をきっかけに少しずつ交流が始まっている。